

玉木雄一郎

「こども国債」で 子育て・教育予算を 倍増させる。

子育て・教育予算が 20年で100兆円増える

日本はオリンピック後、いまだかつて経験したことがない高齢化社会に突入します。そこで考えなくてはならないのは、「何が人を幸せにするのか」です。「人々が支え合って穏やかに暮らすことができる社会」をつくるための後押しができる政策は、昭和の高度成長期の政策とは違うと思うのです。

また、同時にどんな困難な家庭環境で生まれても子供達は自分の未来に希望を感じる、そういう社会でなくてはなりません。子供の貧困をなくす予算は大きなハコモノや道路をつくるよりも重要だと思っています。

財政法を見直して「こども国債」(仮称)を年5兆円発行すれば、子育て・教育予算が倍増します。特に「教育・子育ての完全無償化」を実現させたい。これまでの高齢者型の社会保障を、次世代を担う子どもや若者にも重点を置いた「全世代型」に転換します。

一方で、年金・医療・介護といった「人生後半の社会保障」は、借金ではなく税や保険料を充てます。安易な増税に頼りません。時代に合わなくなった国の予算や決算の仕組みを革新し、国民負担を公平化する。徹底した合理化で、未来にツケを残さない財政を取り戻します。

このほかにも、

責任ある外交・安全保障政策 「リベラル保守政党」の確立

など、まだまだ言いたいことは山ほどあります。くわしくはツイッター、ホームページをご覧ください。

玉木 雄一郎 (たまきゆういちろう)

昭和44年5月1日生まれ 47歳 西年 O型

■出身地 香川県大川郡寒川町(現さぬき市)
■家族 祖母、両親、妻、息子(高校生)の3世代同居
■座右の銘 一所懸命 ■趣味 カラオケ(十八番は「あずさ2号」)、マラソン
兼業農家の長男として、香川県の農村で生まれる。県立高松高校を卒業後、東京大学法学部へ進学。陸上部で10種競技に打ち込む。1993年大蔵省(現財務省)入省。留学先の米ハーバード大学大学院で政治学を学び、2大政党の必要性を痛感。05年、投票日の1ヶ月前に退職し、衆院選に香川2区から挑戦するも、落選。4年間の浪人生活を経て、09年初当選。以来、3期続けて小選挙区で当選中。

日本の経済構造を根っこから 変える「攻めの経済政策」

都市の快適さと田園の安らぎは両立できます。それが「21世紀の田園都市国家構想」です。農業の6次産業化*をもっと進める。農村に再生可能エネルギーを普及させる。地域金融のシステムの整備する。地方空港や港を整備して海外からの投資や交流を呼び込む。できることはたくさんあります。私は「田園からの産業革命」を起こせると本気で思っています。

*6次産業化…農業や水産業などの第1次産業が、食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態のこと。

また、人工知能(AI)の発達や第4次産業革命を踏まえた「攻めの経済政策」で、20年間続いたきた経済の停滞に終止符を打ちます。

①産業政策を「大企業中心から中小企業・ベンチャー企業中心へ」、②国際戦略を「貿易重視から投資重視へ」、③経済システムを「中央集権型から地域循環型へ」変革させるなど、経済構造を根底から転換します。

提案型の憲法論議を

『国民の権利を守り、国家権力の暴走に歯止めをかける』という立憲主義に立ち返るべきです。自民党改憲案のように基本的人権や国民主権の理念を軽視し、立憲主義に反する改憲には反対です。自衛隊に外国での武力行使を認める改憲もダメです。

日本国憲法の平和主義を守らねばなりません。

一方で憲法裁判所の設置、衆参両院の関係、地方自治のあり方など、時代に即した新たな権利について、タブーを恐れずに議論を深めたい。そのために国民的議論のたたき台を示します。

